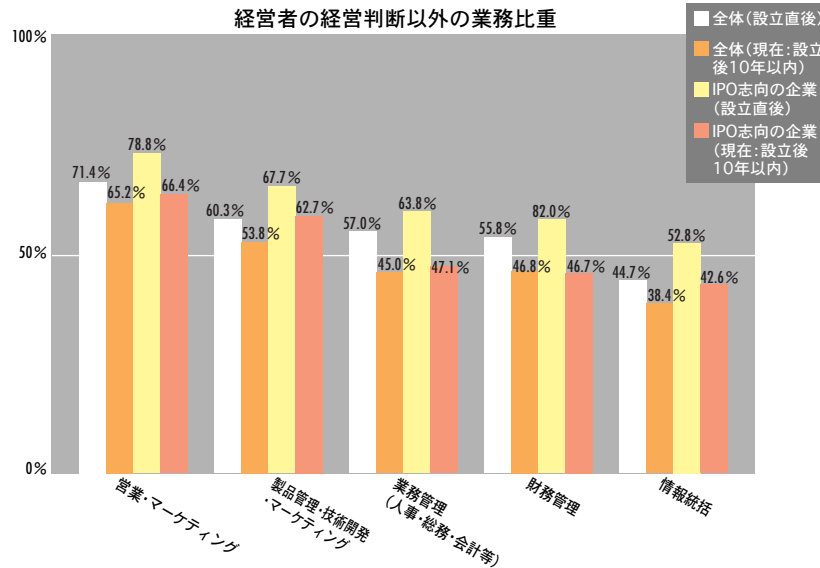


# 社長ってホントに忙しい？ 数字で見る社長のお仕事

53.8パーセント……製品管理・技術開発を兼務する経営者の割合

62.7パーセント……製品管理・技術開発を兼務するIPO志向の経営者の割合



出所：科学技術庁 科学技術政策研究所「日本における技術系ベンチャー企業の経営実態と創業者に関する調査研究(2002年9月)」のデータを加工

「社長」と呼ばれる人たちの本来の役割は、経営判断を行い、その判断について株主や債権者への責任を負うことです。しかし、経営判断だけを行っている社長はむしろ稀でしょう。左のグラフは、創業10年以内の技術系企業を対象に、経営者の経営判断以外の業務比重がどう変わっていくかを調べたものですが、全体的に創業時は手広く何でもやっていた経営者が、徐々に業務の範囲を狭めていっている様子が表われています。この傾向は、業務管理(人事・総務・会計)や財務管理といった分野で特に顕著です。基本的に、会社が大きくなるにつれて会社組織の分業が進んでいくと言えます。

一方、そのうちのIPO(株式公開)をめざしている企業の社長は、設立時も現在も、経営判断以外の業務範囲が広いことが分かります。特に製品開発・技術開発の分野では、他の企業に比べIPO志向の社長の兼務が目立ちます。株式の公開を志すほどの企業なら、通常は企業規模が大きく、社内の分業が進んでいると考えるのが普通ですが、むしろ逆であることは興味深いと言えます。社長が多くの業務を見ている会社だからIPOをめざせると考えるべきか、IPOをめざしているから社長が忙しいのか…。いずれにせよ、会社が順調でも社長さんの苦勞は減らないようです。